

事務部	53%	2	45%	
診療部	31%	3	58%	8 — 回答なし

6. 考察及び反省

最近の患者さんの表情が明るいか、動作がのびのびしているというようなことも話われアンケートにも院内の職員が、そういった感想を述べています。それは患者及患者をとりまく社会の認識が高まって早期に治療を受ける傾向になって来た事も手伝っているかと思はれますが、一方「別棟への隔離」「金銭所持の禁止」「レク、作業への義務的参加」等病棟のきまりをおしつけがちで、目に見えない枠で拘束していたものから解放された結果かもしれない。勿論状態により隔離、禁止等必要な事もでてきてますし、看護力がないから鍵をかけなければならない多くの精神病院の現状をみて、やはり開放病棟の必要性、更に一般科と変らない看護形態で可能なのだという事を強調したいと思います。何か犯罪がおこれが精神障害者の行為とみなされ、「野放し」といった言葉で問題になる、入院しているという好奇心の目でみられ、蔑視される。犯罪の加担者のように思われる。患者に対する社会の偏見はまだまだあり、せつかく退院しても、悪い環境の中で萎縮し、卑屈となり、又、再発、再入院というケースが多く見られる。

本院は狭い意味での社会であると仮定し、アンケートをとってみました。さいわいにもそういった偏見的な見方は少ない様に感じられそれが一般知識として現われたものが経路上から出たものか、考慮の余地があると思います。

いろいろ御意見を述べて頂き、大変参考になりました。入院生活が少しでも快適に過せる様努力して行かねばならないと思いました。

第二内科

長期療養患者に

意欲をもたらせるための働きかけ

発表者 小池 はま子

第二内科 一同

I はじめに

現在結核病棟においては単に肺結核だけでなく成人病その他合併症を持った重症患者が多い。又中には慢性的経過をとり3年4年と長期入院生活をしている患者もいる。療養生活が長くなるにつれて変化がなく無気力になりがちで毎日であるが少しでも意欲を持ち、入院生活を気持よく療養できるよう看護婦のはたらきかけが必要だと感じる。

II 患者紹介

○ 田 ○ 男氏 男性54才 職業・理髪業

病名・結核性膿胸 アジソン氏病

趣味・盆栽 写真

性格・神経質である

入院・昭和42年6月7日

現症状

右肺は気腫胸にて週1回穿刺し排膿しており、又左肺は肺気腫のため呼吸困難あり酸素吸入をしている。又、アジソン氏病の方はストレスによって急性副腎皮質不全の発作を起こす危険性がある。時々全身倦怠感、頭痛等訴えステロイドホルモン投与している。電解質のアンバランスがあり、1日18gの食塩を水に溶いて服用している。このような状態であるためベッド上での生活を基本にしているが、洗面トイレ等は気分に応じて一人で行っている。気分の良い時には椅子にかけたり又ベッド上に起き上がって新聞や雑誌を見たり、ラジオを聞いて過ごしている。食事中にも酸素吸入を必要とし椅子にすわって摂取する。また6人部屋に2人の患者のみで1人は歩行自由の方でとかく独りがちとなる。家には年老いた両親がおられるし酸素吸入はいつ取り除けるかわからないという不安が強い。看護婦は与薬、食事中又、排尿介助時、その他時間の許すかぎり話し相手になったり一諸に新聞を読んだりしている。

Ⅲ 看護上の問題点

- 1) 入院期間が長く又自宅療養の見通しが立たない。
- 2) 呼吸困難があり酸素吸入を続行する必要がある。
- 3) アジソン氏病を合併しており病状変化しやすい。

以上あげられるがその中の1)の問題点に対して実際に行なった看護のみについて発表する。

目標…許される範囲で患者の生活を重んじ気持ちよく療養できるよう援助する。

Ⅳ 働きかけ

- (1) 散歩にて気分の転換をはかる

主治医と話し合い1日10分程の散歩の許可をもらう。気分の良い午前中を選び車椅子にて散歩を始める。景色のよい場所をみつけなるべく患者の意欲をわきたたせるような励ましをしながらすすめてみた。1回目は疲れ心細かった様子だったが2回3回とすすめるにしたがい疲れもそれ程でなく自信も出てきた様子で自分から「散歩に行こう」と言うようになった。しかし開始後4回目で倦怠感、頭痛を訴え医師よりしばらくの間散歩を中止するよう言われた。

- (2) ベッド上でできるレクリエーションを計画する。他の患者も含めてやはり午前10時30分～1時間位で行った。

1) 第1回の計画 レコードコンサート

対象患者以外は動けるため当患者の病室に全員集まりレコード鑑賞をした。曲は「エデンの東」「鉄道員」「真珠採りのタンゴ」「森山良子集」等で曲の選定は希望に合わなかったがそれぞれに拍子をとりに口づさみ楽しんだ。高令者が多いためか、次回はもっと日本調のレコードを入れてくれとの希望が出された。

2) 第2回の計画 冬山のスライド

冬山登山、レクリエーションのスライドであったがお互の思い出話などが出て楽しいひと時であった。

3) 第3回の計画 アメリカ生活のスライド

昭和40年頃アメリカに研修にいかれた先生にお願いする。ナイアガラの滝、アメリカの雄大な自然公園、風俗、習慣のスライドを見て病院にいながらアメリカ旅行ができたと好評であった。40分程だったがずっと起坐にて見ており少し疲れた様子だった。

4) 第4回の計画 結核の療養指導

(1) 結核菌の性状

菌の生存期間、感染経路、消毒法等

(2) 肺結核について

症状、治療、予防について

(3) 療養態度

日常生活の注意事項について、

以上を模造紙に絵を入れて説明する。多くの患者から種々の質問が出され「おじいちゃんの病気は空気感染するから松本には遊びに行かないと言われショックだった」との発言や「一般の人でさえその位の知識があるのだから我々患者はそれ以上に知ってはいけなない」またそれに続いて「ここに入院している人達が退院後は家族や周囲の人達に対して指導者にならなくてはいけなない」「何か結核について簡単な本を紹介してほしい」「これからもこのような機会をぜひ持ってほしい」等看護婦を含め全員でディスカッションをした。

V 反省

はじめの散歩は4回のみ短期間だったが毎日の生活に楽しみが出てきたように思われた。以前より看護者に対し明るく話をするようになった。他の患者を含めたレクリエーションは患者どうしの交流にもなり大きな励みになったと思う。看護者にとっても再認識のよい機会となった。看護の実際の中から、問題点として①結核に対する正しい知識をほとんどの患者が持っていない。②疾患に対して劣等感と不安を持っている。③毎日の療養生活に意欲がなくぼんやりと過ごして

いる。等があげられる。結核に対する正しい知識を持ち、療養に対して少しでも前向きな意欲が患者自身から出てくるような援助を今後も考えていきたいと思う。

1 内

気管支鏡検査 及び気管支造影検査とその介助について

発表者 寺 島 徳 子
齊 藤 安 江
1 内 一 同

I 気管支鏡および気管支造影検査は、胸部疾患 殊に 気管支・肺炎の診断に、治療方針の決定および治療の目的に重要な役割を持っており、近年肺癌の診断上、一般レントゲン検査、喀痰細胞診とならんで、重要な位置を占めています。

II 気管支鏡検査

目的

- ① 診断の為
- ② 治療方針の適応決定の為
- ③ 治療の為

準備すべき物品・薬品

- ①照明灯 ②頷帯反射鏡 ③喉頭スプレー ④喉頭注入器 ⑤喉頭鏡 ⑥気管支鏡 ⑦ファイバースコープ ⑧直、側視鏡 ⑨供覧鏡 ⑩吸引器 ⑪カメラ ⑫軟性のチューブ（ファイバースコープ誘導装置） ⑬鉗子各種 ⑭綿棒 ⑮膿盆 コップ ⑯絆創膏、ガーゼ ⑰三角巾、ガウン、帽子、マスク ⑱4%キシロカイン ⑲10%フェノバル、硫酸アトロピン、マネトール、アドナ、オピスタン ⑳その他救急薬品

術者の準備

- ①検査着にきかえ、マスク、帽子をつける。
- ②手洗いをする。
- ③ガウンテクニック

介助者の準備

- ①三角巾、マスクをつける。
- ②手洗いをする。
- ③ガウンテクニック